



|       |
|-------|
| 白木屋文書 |
| A-1   |
| 4     |

| 摘要 | 年代                | 内容 | 表題   |
|----|-------------------|----|------|
|    | 宝曆九年十二月<br>(一七五九) | 店掟 | 覚    |
|    | 数量                |    | 南世話役 |

東京大学経済学部



一 世に美言を聞かば毎進門の柳

をうらまへて色は芳人にくれん

あまは得ん心くはくはくしと故

流中<sup>マナ</sup>通あまをゆくえは有る

あ合陽めしき<sup>カ</sup>地<sup>カ</sup>めし<sup>カ</sup>延<sup>カ</sup>座

耕<sup>カ</sup>といひし<sup>カ</sup>はあ合<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>事<sup>カ</sup>と

大<sup>カ</sup>候<sup>カ</sup>そ<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>仁<sup>カ</sup>有<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>者<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>心<sup>カ</sup>を

心<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>に<sup>カ</sup>被<sup>カ</sup>大<sup>カ</sup>に<sup>カ</sup>なる<sup>カ</sup>心<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>遠<sup>カ</sup>き<sup>カ</sup>を

あ一方<sup>カ</sup>に<sup>カ</sup>なる<sup>カ</sup>心<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>底<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>正<sup>カ</sup>す<sup>カ</sup>心<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>に

有<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>心<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>自<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>疾<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>相<sup>カ</sup>老<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>信<sup>カ</sup>

うらやま

一 法店乃法禁貿易商内之儀  
して前く規能準繩儀  
指有る二月八月の年合  
意あり力後等のいを毎月  
年合之節は老若不限當  
の掛披えりしは  
右来りたる儀向有るは  
急い反物奉札の旨有る

有るは  
中作改より急交下り  
一 法店儀は古来より  
法用物  
し  
法事  
之身自由法仕入有る  
人  
めし  
庶来り

指の形くは仕入兼の代付物、  
相止の事採まふ旨の代付物上も  
法蘭賣内の代付物に相考相  
法の上仕入の事しを出格し  
交事ら古来より仕入兼の代付物  
内の中賣の事も纏ひおし有る  
まふ店合も抽ひの形しある  
あまの事しを代付物に有る事  
しを類としはるに層も毛と  
積りしを古格と刷墓（毛）の事

向付代付物と仕入兼の代付物  
商内と層の事しを代付物  
一法店法蘭賣物内の代付物は  
右切らふ合ひは是より代付物  
小島物類の代付物は法蘭初段  
法蘭賣物に法蘭尚法蘭法蘭兼  
領の法事しを法蘭代付物  
しを法蘭代付物に法蘭代付物  
右格法蘭代付物に法蘭代付物  
割りしを法蘭代付物に法蘭代付物





かゝ物賣上りおとしもかゝりしあふ  
此月をてししりをもくはてし  
大店の藏へ遠く出し物送り  
法事しる先柳を勝りし  
中ありしをこの印店新書局  
引合はるしあふ店中へ氣と身  
下しし事

一 新徳意あふし事い前へしもの  
此を新徳意あふしはしりし  
さしあふしあふ合し玉守り

あふし徳意あふしはしりし  
はしりあふしはしりし  
さしあふしあふしはしりし  
あふし徳意あふしはしりし

一 船頭御しあふしはしりし  
善波物入角しあふしはしりし  
おしあふしはしりし  
あふし徳意あふしはしりし

一 石名屋はしりしあふしはしりし  
あふし徳意あふしはしりし



勢を我鹿怪に足居るが向  
腰係は用向とあるは○奥  
は業内は先程幸甚は業杯  
上は去上は入用とあるは  
了あるは事

一玉市卜入并徳意流もは活没外  
も透の流有るなり相まは活  
り〜〜を親しむるは  
節は生活没〜〜を透も  
五園と〜〜は事

一惣解法は文為人〜〜は神り  
代呂物は法徳とあり節は没入各  
神法用は法徳とありは知は相  
進もあ悟ては法をも法りも  
ひも〜〜は白徳徳意先  
〜〜は事言の作也も有る者  
ひりたは法徳とありは法徳  
一合意くは徳意玉市幸甚は  
徳意もあ〜〜は法徳の介進  
貴き〜〜は明り法徳

氣をたすべしと申すは、

自方月事方々の事にて、

その月の危へま戻つて「後」

一 若解候る危へも、

身様投てと、

杯支取人き、

お返さく、

後

一 〇 替りの危生候る、

と、

後代も物は、

味、

現金賣打の氣、

下、

一 後代も物、

と、

危、

一 〇 〇 類、

と、

と、

じい女代り物りんがきしん事  
有る物いりる疾らふ体しん  
了る事

一 印又券合し初周事至り月  
子向しし生事至る事  
相法下りし印又券合し  
より時けし角内しし事  
指しし事いりる老若し  
善悪事及難事  
印又下りる事

一 流代り物り人より賣りし  
右列中活役人より賣りし  
了る事  
相法下りし事いりる仕合事  
了る事

一 流代り物り人より賣りし  
新り物りし事いりる  
印又券合し事いりる  
印又券合し事いりる

送るべき一紙別紙に記す  
中事

一 法代名物の并替は、  
一紙総合より下級に替り後  
の事一頁に記す  
一 常々一紙を寄せてお  
かす事  
一 老老を替りて後事  
一 名を代名物と改めたる事  
一 法代名物の痛手一紙に記す

一 氣と名物紙をふりて  
一 下級の張札おちく  
一 古書より折一紙替り  
一 色紙の品紙種より買わぬ  
一 おしるは中活紙、古法  
一 名物と名物一紙  
一 毎紙に記す場、  
一 貴書の甲乙おた  
一 相一紙より用事

前くの題の如く、（？）の如く、（？）の如く

お御りて、（？）の田舎段と名づかひの  
各中、（？）の如く、（？）の如く

新徳言お振初、（？）の如く

門限の上塚場、（？）の如く指圖と

文下、（？）の如く、（？）の如く

自分、（？）の如く、（？）の如く

す、（？）の如く

一、（？）の如く、（？）の如く

相、（？）の如く、（？）の如く

ら、（？）の如く、（？）の如く

ら、（？）の如く、（？）の如く

ら、（？）の如く、（？）の如く

ら、（？）の如く、（？）の如く

ら、（？）の如く、（？）の如く

ら、（？）の如く、（？）の如く

ら、（？）の如く、（？）の如く

ら、（？）の如く、（？）の如く

ら、（？）の如く、（？）の如く

ら、（？）の如く、（？）の如く

玉為月之初の辰未の事  
はは度書之初の辰未の事  
と云ふは辰未の辰未の辰未の  
辰未の辰未の辰未の辰未の  
辰未の辰未の辰未の辰未の  
辰未の辰未の辰未の辰未の  
辰未の辰未の辰未の辰未の  
辰未の辰未の辰未の辰未の  
辰未の辰未の辰未の辰未の

一 玉為月之初の辰未の事  
辰未の辰未の辰未の辰未の  
辰未の辰未の辰未の辰未の  
辰未の辰未の辰未の辰未の  
辰未の辰未の辰未の辰未の  
辰未の辰未の辰未の辰未の  
辰未の辰未の辰未の辰未の  
辰未の辰未の辰未の辰未の

一 玉為月之初の辰未の事  
辰未の辰未の辰未の辰未の  
辰未の辰未の辰未の辰未の  
辰未の辰未の辰未の辰未の  
辰未の辰未の辰未の辰未の  
辰未の辰未の辰未の辰未の  
辰未の辰未の辰未の辰未の  
辰未の辰未の辰未の辰未の

一 玉為月之初の辰未の事  
辰未の辰未の辰未の辰未の  
辰未の辰未の辰未の辰未の  
辰未の辰未の辰未の辰未の  
辰未の辰未の辰未の辰未の  
辰未の辰未の辰未の辰未の  
辰未の辰未の辰未の辰未の  
辰未の辰未の辰未の辰未の



主簿 沃所... 白牙... 了... 了...

門院... 白牙... 了... 了... 人... 杯...

... .. 事... 用...

一 日... 元... 知... .. 儀... 成... ..

持... 日... 成... 事... 用... .. 事...

主簿... 沃... 方... .. 事... .. 文... 既... .. 事...

下... .. 事...

一 法... 子... 使... .. 元... 名... .. 事... .. 元... 内...

事... 陽... .. 元... 氣... .. 事... 事... 始... .. 節... .. 道...

了... .. 元... 正... .. 川... 法... .. 方... .. 事... .. 元... 別... 能... .. 事...

力... 持... .. 事... .. 事...

一 元... 級... 日... 會... 級... 相... 事... 繁... 隆... .. 事...

為... 事... .. 事... .. 元... 活... .. 事... .. 元... 合... .. 事... .. 元... 事...

一 元... 名... 信... 言... .. 事... .. 元... 事... .. 元... 日... 會... 級... .. 事...

元... 事... .. 元... 日... 會... 級... .. 事... .. 元... 事... .. 元... 事... .. 元... 事...

元... 事... .. 元... 事... .. 元... 事... .. 元... 事... .. 元... 事... .. 元... 事... .. 元... 事...

元... 事... .. 元... 事... .. 元... 事... .. 元... 事... .. 元... 事... .. 元... 事... .. 元... 事...

元... 事... .. 元... 事... .. 元... 事... .. 元... 事... .. 元... 事... .. 元... 事... .. 元... 事...

元... 事... .. 元... 事... .. 元... 事... .. 元... 事... .. 元... 事... .. 元... 事... .. 元... 事...

元... 事... .. 元... 事... .. 元... 事... .. 元... 事... .. 元... 事... .. 元... 事... .. 元... 事...









月宮の物語をたゞしとて後  
吟詠して後日格別不能操に仁  
有とありて後合し内ありとて  
頭分門、川信を治りてとて  
とてとて治りてとてとてとて  
と形向之味とて中商言新と  
有ととととととととととと  
何事、之後川信とて後後和  
人頼りしと事、下力と事  
常と事人、と事、と事、と事、

須磨相替たしあひと事

一夜仕事と事、と事、と事、

肌と事、と事、と事、と事、

お生おりの入のり看交ら

と月と事、と事、と事、と事、  
相安と事

朝言お入と事、と事、と事、

と事、と事、と事、と事、

一切如佛と不平の者は  
以て師の計擗摩元証人  
成ハ及中なる徳念も  
氣と身と事

一 神前佛前事ありて法用

~~~~~の看類法々奥

方々法ありて法用と擗

法用ありて上事と知を

認めは言らるる角

~~~~~の事

一 之事同分ありて全夜

之限通る夜事と角

中法あり

一 法師様法法ありて事

一 在之上事ありて事

一 方々角ありて事

~~~~~の事

~~~~~の事

一 地味之用

買合物の初括り

一 大病人の作

一 宜し月三ヶ月居る居る  
む、預かりしんを居る掛合く  
事

右者日くの心掛と居申一流

買合の上人こくろ名知入

かき一集り写し一書き

力並る買合と節は高きく

は高きく一尚又勝り宜和

高きく一高きくは高きく

高きく一高きく

宣  
曆  
九  
巳  
年  
三  
月

|       |
|-------|
| 東大・経済 |
| 白木屋文書 |
| A1    |
| 4     |



